

地域と心つなぐ音楽

浅水小児童がコンサート

「浅水小学校スペシャルコンサート」は6月25日、登米祝祭劇場で開かれ、同小児童らの歌や演劇に、約300人の聴衆が魅了されました。

コンサートは、小学校を中心に地域住民のつながりを大切にしようと同小とPTAが初めて開催。児童は「明日を信じて」など4曲を歌い、劇も演じました。このほか、市内外の2つのコーラスグループが「星の世界」など計12曲を披露。最後に全員で校歌を合唱しました。羽生進さん＝中田町巻＝は「子どもたちの元気な歌声に励まされました。地域がつながれる貴重な企画。今後も続いてほしい」と次回開催に期待を寄せました。



児童らは「ふるさと」「浅水小校歌」などで、見事なハーモニーを奏でました。

ようこそ TOME へ

サウスレイクから訪問団

本市の姉妹都市、米国テキサス州サウスレイク市から中高生の男女6人とその随員3人は6月6から12日までの7日間、ホームステイなどで交流を深めました。

本市とサウスレイク市は、1992年から中高生の相互訪問を実施。6月8日には、大嶽山興福寺嶽内真弘住職の指導で書道を体験しました。使い慣れない筆に全員悪戦苦闘。デラニー・エドワーズさんは「筆で強弱をつけるのと、文字のバランスを取るのが難しかったです。書道を続けると忍耐強くなれそう」と笑顔を見せました。



習字のお題は「友」。全員、墨と筆は使ったことがないので、一画ずつ練習をしてから、最後に清書しました。

地域の芸能に触れる

横山小児童が狂言を体験

「横山小学校5年学年PTA・出前授業」は6月30日、横山小で開かれ、児童15人と保護者らが地域の伝統芸能に触れました。

出前授業は、登米謡曲会(大海俊一会長)の協力の下に開催。同会は、市内の幼稚園や介護施設などで出前狂言を開催しており、同日は演目「附子」を披露しました。児童らは鑑賞だけでなく、舞台の設営や衣装を試着し振り付けなども体験。普段触れることのない道具や衣装に、興味津々でした。児童らは「狂言を見たのは初めてでした。おもしろかったです」と声を弾ませていました。



舞台設営だけでなく、衣装を身に付けて狂言を体験する児童ら。「衣装は重いけど意外と涼しい」と驚いていました。

知識と意識の大切さ

29年総合防災訓練を実施

平成29年度市総合防災訓練は6月11日、市消防防災センターで開かれ、自主防災組織や消防関係団体など9団体約300人が参加しました。

訓練は、自主防災組織の防災力向上が目的。参加者は三つのグループに分かれ、初期消火、応急救護や指定避難所の運営訓練などを実施しました。指定避難所運営訓練では、自主防災組織役員が実際の現場を想定し真剣に取り組んでいました。訓練に参加した石堂幸一さん＝米山町清水＝は「図上訓練は有効な訓練手法。地域内でより多くの人に普及、浸透させる必要がありますね」と訓練の重要性を再認識していました。



新聞や雑誌など、身近にあるものを使って、応急手当の訓練をする参加者ら。

次世代に伝承・保存

石越で市民民俗芸能大会

「第13回登米市民俗芸能大会」(市民俗芸能協会主催)は7月2日、石越体育センターで開かれ、来場者は南部神楽など、多様な民俗芸能を楽しみました。

民俗芸能大会は、市内各地で伝承されてきた民俗芸能を次代へ伝承することを目的に、毎年市内各地で持ち回り開催。19団体が出演し、法印神楽、南部神楽のほか、田植踊、獅子舞などが披露されました。家族と一緒に鑑賞した猪股優生さん＝石越町駅前＝は「おじいさんが出演するので、お母さんと見に来ました。踊りも太鼓の音も迫力があってすごかった」と目を輝かせていました。



各団体が演舞を披露。小野寺俊彦大会長は「地域に伝わる民俗芸能に親しみ、楽しんでほしい」と話していました。

店主が教える得情報

商店会連合会でまちゼミ

得する街のゼミナール「とめまちゼミ」は6月15日から7月15日まで、佐沼商店会連合会加盟商店で開かれ、多くの受講者が、専門店の知識と技を学びました。

まちゼミは、お店と街のファンづくりを目的に佐沼商店会連合会が実施。商店主が講師となり、専門知識と技を受講者に伝授しました。生花販売の「若葉園芸」では、花を使って生活を楽しむ方法を開講し、8人が受講。花を使って、人とコミュニケーションをとる方法などについて、説明を受けました。細川妙子さん＝迫町板橋＝は「花に意外な使用方法があることを知り、驚きました。人とつながれるのも楽しい」と話していました。



コミュニケーション法だけでなく、栽培の際のワンポイントアドバイスもあるなど、充実の内容に受講者は満足気でした。